

世界のマエストロ、 ユーリ・テミルカーノフ との交友

たいだ ひでや
糸田英哉
国際交流基金参与

G8で開かれた特別な演奏会

昨年秋、ユーリ・テミルカーノフが20年来音楽監督をつとめている名門、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団を率いて2年半ぶりに日本へ演奏旅行にやってきました。シヨスタコーヴィチやチャイコフスキーなどのお得意のレパートリーでサンクトリーホールの聴衆を熱狂させた。

そのあと、いつものように楽屋を訪ねると、マエストロは開口一番、日本の小泉首相はナイスガイだねと言う。なぜだと尋ねると、その前の7月にサンクトペテルブルクでG8が開かれた際、プーチン大統領はときどきそうするらしいのだが、今回

も親しいマエストロに頼んでサミット首脳のためだけに、特別にこのオーケストラの演奏会を開いたのだそう。その演奏が終わったとたん、小泉首相は、ただ一人マエストロのところに駆けつけ、「マエストロ！素晴らしいかった!!」と手をとって感激を伝えた。こんなことをしたのは彼一人だけだったそうで、音楽を理解する日本の首相は素晴らしいというのだ。

マエストロとの出会いと縁

マエストロとお互い「マイブラザー」と呼び合う仲になったのは、誕生日が1カ月違いの同い年ということもあるが、なぜか縁があつてケミストリーが合ったとしか言いようがない。アメリカの友人から紹介されて東京で一一緒に食事をしたのが最初だが、しばらくあとで、彼のボルチモアでの演奏旅行の日がたまたま小生のアメリカ出張の最後の日と重なり、ボルチモアで再会することになったり、その半年後にロンドンでの演奏旅行の日が小生のケンブリッジ出張の帰りのたった一晚だけのロンドン泊の日と同じ、と立て続けに再会が重なったこともある。し

かもこの2001年のコンサートはいまや世界的に認められて大活躍の庄司紗矢香のロンドン・デビューの日で、マエストロ率いるボルチモア交響楽団をバックに彼の強い推薦でブラームスのヴァイオリン協奏曲を弾き、大成功を収めた記念すべき夜でもあつた（庄司紗矢香がもっとも影響を受け、世界中でもっとも尊敬するマエストロが彼なのだ）。

この広い地球をまわつたく別々に動いている我々二人にそのような偶然だけとは思えないような接点があつたことに、お互い何か不思議な縁を感じている。

市民の誇りとしてのマエストロ

彼の手にかかるとオーケストラの音がなぜかわ変わつてしまふと言われるほど、指揮者として今、最高に脂がのつている。世界の名だたるオーケストラとの競演が数年先までびつしり決まつていて、落着く暇もない旅また旅の人生が続いている。

是非、サンクトペテルブルクに遊びに来いというので、一昨年の夏、ワイフとともに訪れた。マエストロは大喜びで、彼自慢のフィルハーモニーホールでのコンサートやマリ

インスキー劇場でのバレエをはじめ、あちこち案内をしてくれた。

サンクトペテルブルクへ行つてみて、世界のマエストロはこの町の名誉市民であり、ロシア人の誇りでもあることがよくわかつた。町を歩いていても大変な人気なのだ。この町の300年を祝つた祭典行事で、彼がオープニングの記念コンサートを指揮したのは今でも人々の記憶に新しい。先日、そのDVDを見て、改めて彼の偉大さを再認識した。こんな素晴らしい友人を持つことができ、つくづく幸福だと思ふ。5月の再来日では、読売日本交響楽団の定期演奏会で庄司紗矢香との競演が予定されており、これも今から楽しみだ。

たいだ ひでや●1961年東京大学教養学部卒業後、丸紅飯田（現在の丸紅）に入社。欧阿支配人（ロンドン駐在）、専務取締役などを務め、国際ビジネスの分野で活躍。2002年1月より国際交流基金日米センター所長、03年10月よりは理事を兼任、07年1月より現職。「スズキ・メソッド」の第1期生として現在もバイオリン演奏を楽しむ



←夫妻で訪れたサンクトペテルブルクにて、ユーリ・テミルカーノフ氏と 写真提供：筆者